



第百三十七號

(第十二卷)

昭和七年九月

學術とスポーツ

頻々としてやつて来るロスアンゲレスの電波は、めざましい我が同胞選手の大成功を報じて来る。エライものである。此の「短小、貧弱な」と思はれる體軀を以つて、誰が見ても勝算は殆んど無さそうな體質を以つて、我が日本選手のオリンピック競技に於ける活躍は全世界を驚かしてゐる。肉體の戰場に於いてさへ此れだけの成功を獲た我が日本人は、之れほどのハンヂキャップの無さそうに思はれる頭腦の競争裡に於いて、今は全く何のひげ目も無く、戦ひぬき、勝ちぬき自信と氣珀とが無ければならぬ。

實際、陸海空の軍備に於いても、今や我が日本は「三大強國」の一つであり、世界外交の檣舞臺に於いても、所謂「五列強」の仲間に入つてゐる。其の他、實業に於いても、海運に於いても、其のほか尙いろいろな方面に於いても、我が日本は今日世界の偉大なるメンバーと成りつゝある。——只、残念にも、學術に於いては、殊に我等の天文學に於いては、(卒直に言へば)スペインやインドに比すべき程度の、第三流乃至第四流ではないか！

オリンピック競技の成績は吾等に多くの點を教へる。此等の大成功は個々の選手や監督指導者の奮勵の賜なること勿論であるが、尙、之れに全國民衆の後援が強く働きかけてゐるのを忘れてはならない。學術方面に於いても、眞に力強い進歩と成功とを望むならば、個々の學者の努力を勵まし、新人の輩出を容易ならしめるため、全國民衆の滿腹的な支持と後援と同情と協力とが必要であると言ふまでもない。北米の東部には今東京から若い二人の學者が日食觀測に行つてゐる。若し、オリンピックの選手たちが、此の二天文家の如く、只、文部省の會計課に依頼するのみで、民衆に忘れられつゝ、ひそかにロスアンゲレスへ臨んだならば、成功の榮冠は果して如何ほど期待し得られたであらうか？ 往年歐洲へ單獨遠征した人見絹枝嬢の場合にも一般民衆の支持と後援とは非常なものであつた。して見ると、我が學術の世界的進出は未だ末遠いことと慨嘆せざるを得ないらしい！！ 今や實行期に入つたかの極地觀測事業に對してさへ、我が民衆は全く無智冷淡そのものではないか！ 噫！ (8月10日記)